

## 福岡県消防学校 個別施設計画について

### 【施設の概要】

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S 造地上 2 階、建築面積 93.9 m <sup>2</sup> 、延床面積 118.61 m <sup>2</sup> ）があります。		

福岡県消防学校は、消防職員及び消防団員の教育訓練を行うことを目的として、昭和 23 年 3 月に福岡市西新町（現在の福岡市早良区西新）に設立されたものです。昭和 28 年 7 月に福岡市東区名島に新築移転後、昭和 48 年 11 月に宗像郡福間町（現在の福津市）に新築移転しました。現施設は、平成 29 年 4 月に嘉麻市牛隈の旧嘉穂工業高等学校跡地に新築移転したものです。

### 【個別施設計画の策定単位】

消防学校の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①管理棟、②宿泊棟、③体育館、④教育棟、⑤屋内訓練場、⑥高層訓練棟、⑦中層訓練棟、⑧車庫兼訓練施設、⑨食堂棟、⑩救助基本訓練施設、⑪水難救助訓練施設の 11 に分け、それぞれについて今後の改修等に関する計画を策定しました。



福岡県消防学校  
(管理棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（管理棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	管理棟			
棟 番 ・ 枝 番	86	—	1	竣 工 年 度 平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,165.93		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,907.06
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 4 階			
各 階 面 積 及 び 用 途				
階 別	階 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )		
4F	711.52	大教室、準備室		
3F	923.83	校長室、事務室、講師室、学生医務室、宿直室		
2F	31.29	吹抜		
1F	240.42	風除室、エントランスホール、展示ブース		

福岡県消防学校の管理棟は平成 28 年度に竣工しました。福岡県消防学校は、消防職員及び消防団員の教育訓練を行うことを目的として、昭和 23 年 3 月に福岡市西新町（現在の福岡市早良区西新）に設立されたものです。昭和 28 年 7 月に福岡市東区名島に新築移転後、昭和 48 年 11 月に宗像郡福間町（現在の福津市）に新築移転しました。現施設は、平成 29 年 4 月に嘉麻市牛隈の旧嘉穂工業高等学校跡地に新築移転したものです。

管理棟は、1 階にエントランスホール、3 階に校長室、事務室、学生医務室、4 階に大教室等を有しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称	管理棟		
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番	86	-	1
建築年度	平成28年度	建築面積	1,165.93 m <sup>2</sup>	現存率	100.0	想定	65年
構造・階数	RC 4	延面積	1,907.06 m <sup>2</sup>			耐用年数	65年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	屋根防水密着工法 (A1-1)	4	100.0		20.00
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・ フッ素樹脂クリア塗装	4	100.0		20.00
	小計						40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の管理棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	屋根保護防水密着工法(AI-1)	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し(A種)フッ素樹脂クリア塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	アルミ複合板化粧ケイカル板	100.0	劣化	特に問題なし
天井	アルミ複合板 GB ケイ酸カルシウム板	100.0		
床	ビニル床シート タイルカーペット 防塵塗装	100.0		
建具	アルミサッシ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	自家発電設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	易操作型 1 号屋 内消火栓等	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	乗用兼車いす用	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（管理棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(宿泊棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（宿泊棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	宿泊棟				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	2	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,322.61		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	3,633.29	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 5 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
5F	350.35	屋上、物干し場			
4F	1017.95	宿泊室、ミーティングルーム、談話ロビー			
3F	1017.95	宿泊室、ミーティングルーム、談話ロビー			
2F	866.50	宿泊室、女子浴室、ミーティングルーム、舎監室			
1F	380.54	エントランスホール、男子浴室、寮直室			

福岡県消防学校の宿泊棟は平成 28 年度に竣工しました。宿泊棟は、1 階に男子浴室、寮直室、2 階に宿泊室、女子浴室、ミーティングルーム、舎監室、3・4 階に宿泊室、ミーティングルーム、談話ロビーを有しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	福岡県消防学校		建物名称	宿泊棟					
所在地	嘉麻市牛隈1794番地		棟番・枝番	86	-	2	築年数	4年	
建築年度	平成28年	2016年度	建築面積	1,322.61 m <sup>2</sup>		現存率	100.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC	5	延面積	3,633.29 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②		
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00		
	小計							40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	屋根防水密着工法(A1-1)	4	100.0		20.00		
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・フッ素樹脂クリア塗装	4	100.0		20.00		
	小計							40.00	
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00		
	小計							10.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00		
	小計							10.00	
合計							100.00		

この結果、消防学校の宿泊棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>2</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	屋根保護防水密着工法(AI-1)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し(A種) フッ素樹脂クリア塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	ケイ酸カルシウム板 化粧ケイカル板	100.0		
天井	GB ケイ酸カルシウム板	100.0	劣化	特に問題なし
床	ビニル床シート クッションフロア 防塵塗装	100.0		
建具	アルミサッシ 鋼製建具	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	自家発電設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満

<sup>2</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	易操作型 1 号屋 内消火栓等	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	乗用兼車いす用	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（宿泊棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(体育館)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（体育館）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	体育館				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	3	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,356.31		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,019.80	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	1,284.75	体育館、ステージ、器具庫			
1F	732.05	防火衣更衣室、トレーニングルーム、シャワー室、備蓄倉庫			

福岡県消防学校の体育館は平成 28 年度に竣工しました（体育館は旧嘉穂工業高等学校の既存体育館[平成 2 年度建築]を改修）。体育館は、1 階にトレーニングルーム、防火衣更衣室、備蓄倉庫、2 階に体育館、器具庫等を有しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### ((1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。また、築4年と新しいため、計画期間中に改修を優先すべき事情は特にありませんが、当該建物については、旧嘉穂工業高等学校の既存体育館（平成2年度建築）を改修して整備されたものであり、新設の建物より老朽化の進行が早いと考えられることから、建物の状態等に応じて優先的に改修を行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う予定はありませんが、老朽化の進行状況を考慮し、当該施設内の他の新設建物に優先して、予防保全による管理を計画的に行っていきます。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表										
施設名称	福岡県消防学校			建物名称	体育館					
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番	86	-	3	築年数	4年	
建築年度	平成28年	2016	年度	建築面積	1,356.31	m <sup>2</sup>	現存率	100.0	想定 耐用年数	65年
構造・階数	RC	2	延面積	2,019.80	m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)			仕様	経過 年数	②各部位の現存率		①×②		
構造	躯体	40	RC	4	100.0	40.00				
	小計					40.00				
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	フッ素鋼板カラーガル バリウム鋼板瓦葺き	4	100.0	20.00				
	外壁	20	薄付け仕上げ塗装	4	100.0	20.00				
	小計					40.00				
電気設備	受変電設備	10		4	100.0	10.00				
	小計					10.00				
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0	10.00				
	小計					10.00				
合計					100.00					

この結果、福岡県消防学校の体育館の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>3</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	フッ素鋼板カラーガルバリウム鋼板瓦葺き	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	薄付け仕上げ塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	有孔ラワン合板 ビニルクロス EP 磁器タイル	100.0	劣化	特に問題なし
天井	プラスチック天井版 GB 木毛マグネシウム板	100.0		
床	ビニル床シート 楓フローリング ボード	100.0		
建具	アルミサッシ スチール	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-

<sup>3</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	-
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	易操作型 1 号屋 内消火栓等	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（体育館）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(教育棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（教育棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	教育棟				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	4	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	663.84		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,013.37	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 3 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
p HF	21.98	搭屋屋上			
3F	663.84	理化学実験室、救急教材室、救急実習教室			
2F	663.84	第1・第2・第3教室、教材室			
1F	663.71	会議室A・B・C、図書室			

福岡県消防学校の教育棟は平成28年度に竣工しました（教育棟は旧嘉穂工業高等学校の既存建物[平成12年度建築]を改修）。教育棟は、1～2階に会議室、教室、3階に理化学実験室、救急実習教室等を有しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。また、築4年と新しいため、計画期間中に改修を優先すべき事情は特にありませんが、当該建物については、旧嘉穂工業高等学校の既存建物（平成12年度建築）を改修して整備されたものであり、新設の建物より老朽化の進行が早いと考えられることから、建物の状態等に応じて優先的に改修を行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う予定はありませんが、老朽化の進行状況を考慮し、当該施設内の他の新設建物に優先して、予防保全による管理を計画的に行っていきます。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称		教育棟	
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番		86	- 4
建築年度	平成28年度	建築面積	663.84 m <sup>2</sup>	現存率	100.0	想定耐用年数	
構造・階数	RC 3	延面積	2,013.37 m <sup>2</sup>			65	年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	露出防水絶縁断熱工法(ASI-T1)トーチ工法	4	100.0		20.00
	外壁	20	薄付け仕上げ塗装	4	100.0		20.00
小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の教育棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>4</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	露出防水絶縁断熱工法(ASI-T1)トーチ工法	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	薄付け仕上げ塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	ビニルクロス 化粧ケイカル板 EP 磁器タイル	100.0	劣化	特に問題なし
天井	GB	100.0		
床	ビニル床シート タイルカーペット フローリング	100.0		
建具	アルミサッシ スチール	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-

<sup>4</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	-
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
その他設備	T V共同受信 防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
消火設備	易操作型1号屋 内消火栓等	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（教育棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(屋内訓練場)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

✿福岡県✿

福岡県消防学校（屋内訓練場）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積 93.9 m <sup>2</sup> 、延床面積 118.61 m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	屋内訓練場				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	5	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,241.38		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,433.79	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 3 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	172.09	渡過訓練用デッキ、キャットウォーク			
中 2F	69.58	キャットウォーク			
1F	1192.12	屋内訓練場、倉庫、ろ過機械室			

福岡県消防学校の屋内訓練場は平成 28 年度に竣工しました。屋内訓練場は、雨天時も教育訓練ができるように、全長 70m、幅 13～16m、高さ 13mの全天候型の訓練施設で、はしご車等の消防車両を乗り入れた訓練も可能になっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	福岡県消防学校		建物名称	屋内訓練場				
所在地	嘉麻市牛隈1794番地		棟番・枝番	86	-	5	築年数	4年
建築年度	平成28年度	建築面積	1,241.38 m <sup>2</sup>	現存率	100.0	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 3	延面積	1,433.79 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	4	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト露出防水密着工法(D-1)	4	100.0	20.00		
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・フッ素樹脂クリア塗装	4	100.0	20.00		
	小計						40.00	
電気設備	受変電設備	10		4	100.0	10.00		
	小計						10.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0	10.00		
	小計						10.00	
合計						100.00		

この結果、消防学校の屋内訓練場の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>5</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト露出防水密着工法 (D-1)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し (A 種) アクリル樹脂クリア塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	コンクリート打放補修	100.0		
天井	コンクリート打放補修	100.0	劣化	特に問題なし
床	防塵塗装 防水モルタル	100.0		
建具	アルミサッシ 鋼製建具	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満

<sup>5</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（屋内訓練場）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(高層訓練棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（高層訓練棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	高層訓練棟			
棟 番 ・ 枝 番	86	—	6	竣 工 年 度 平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	228.15		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,346.93
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 10 階			
各 階 面 積 及 び 用 途				
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )		
10F	49.00	訓練室		
9F	49.00	訓練室		
8F	49.00	訓練室		
7F	49.00	訓練室		
6F	49.00	訓練室		
5F	108.64	屋上訓練スペース、ロープ渡過降下訓練室		
4F	108.53	屋上訓練スペース、安全ネット室		
3F	220.64	屋上訓練スペース、ロープ渡過降下訓練室		
2F	220.53	訓練室、安全ネット室		
1F	219.59	訓練室、中央監視室		
B1	224.00	中央監視室、訓練室、機械室		

福岡県消防学校の高層訓練棟は平成28年度に竣工しました。高層訓練棟は、高層ビル災害に対応した各種消火・救助訓練など高度な消防訓練を実施することを目的として整備されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称		高層訓練棟	
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番		86	- 6
建築年度	平成28年度	建築面積		228.15 m <sup>2</sup>		現存率	100.0
構造・階数	RC	10	延面積		1,346.93 m <sup>2</sup>		
	想定耐用年数				65年		
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	屋根保護防水工法(AS-T1)	4	100.0		20.00
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・撥水材塗装	4	100.0		20.00
	小計						40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の高層訓練棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>6</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	屋根保護防水工法 (AS-T1)	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し (A 種) 撥水材塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	コンクリート打放補修	100.0	劣化	特に問題なし
天井	コンクリート打放補修	100.0		
床	防塵塗装 防水モルタル ポリマーセメント系塗膜防水	100.0		
建具	アルミサッシ スチール 鋼製建具	100.0		
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

<sup>6</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（高層訓練棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(中層訓練棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（中層訓練棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	中層訓練棟				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	7	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	219.98		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	907.89	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 5 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
5F	198.94	実火災訓練室、降下訓練室			
4F	198.83	監視室、安全ネット室			
3F	198.94	実火災訓練室、降下訓練室			
2F	108.18	監視室、安全ネット室			
1F	203.00	燃焼実験室、監視室、機械室			

福岡県消防学校の中層訓練棟は平成28年度に竣工しました。中層訓練棟は、耐熱耐煙訓練施設として、3階と5階に屋内で火を燃やすことが可能な実火災訓練室を整備しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称		中層訓練棟	
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番		86	- 7
建築年度	平成28年度	建築面積		219.98 m <sup>2</sup>		現存率	100.0
構造・階数	RC	5	延面積		907.89 m <sup>2</sup>		
						想定耐用年数	65年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	屋根防水密着工法(A1-1)	4	100.0		20.00
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・吸水防止材塗装	4	100.0		20.00
	小計						40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の中層訓練棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>7</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	屋根保護防水絶縁工法(A-1)	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し(A種)吸水防止材塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	EP コンクリート打放補修 無機質セメント系耐火断熱材	100.0		
天井	コンクリート打放補修 不燃積層石膏ボード	100.0	劣化	特に問題なし
床	防塵塗装 ポリマーセメント系塗膜防水 押えコンクリート金ゴテ	100.0		
建具	アルミサッシ スチール 鋼製建具	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

<sup>7</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（中層訓練棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(車庫兼訓練施設)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（車庫兼訓練施設）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9 m <sup>2</sup> 、延床面積118.61 m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	車庫兼訓練施設				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	8	竣 工 年 度	平成 27 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	610.69		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	575.97	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 1 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
1F	575.97	車庫、倉庫、油庫、器材庫			

福岡県消防学校の車庫兼訓練施設は平成27年度に竣工しました。車庫兼訓練施設は、救助工作車等の消防車両の車庫及び車両点検やポンプ組立等の訓練を行うスペースを有する施設です。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築5年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築5年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称		車庫兼訓練施設	
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番		86	- 8
建築年度	平成27年度	建築面積		610.69 m <sup>2</sup>		現存率	100.0
構造・階数	RC	1	延面積		575.97 m <sup>2</sup>		
想定耐用年数						65	年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	5	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト露出防水断熱工法(D-1)	5	100.0		20.00
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・撥水材塗装	5	100.0		20.00
小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		5	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		5	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の車庫兼訓練施設の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>8</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト露出断熱防水工法 (D-1)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し (A 種) 撥水材塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	コンクリート化粧打放し	100.0	劣化	特に問題なし
天井	コンクリート化粧打放し	100.0		
床	コンクリート増打ち金ゴテ	100.0		
建具	アルミ スチール 鋼製建具	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満

<sup>8</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2015	5	新	—	—	—	—	65 年

築 5 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（車庫兼訓練施設）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 60 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築5年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は60年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(食堂棟)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（食堂棟）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	食堂棟				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	9	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	502.40		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	543.33	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	435.60	食堂、調理室、洗浄室、検収室、食品庫、備品庫			
1F	107.73	倉庫、ゴミ置場			

福岡県消防学校の食堂棟は平成 28 年度に竣工しました。食堂棟は、1 階に倉庫、2 階に食堂、調理室等を有しています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表								
施設名称	福岡県消防学校			建物名称		食堂棟		
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番		86	- 9	
建築年度	平成28年度	建築面積	502.40 m <sup>2</sup>		現存率	100.0	築年数	4年
構造・階数	RC	2	延面積	543.33 m <sup>2</sup>			想定耐用年数	65年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	屋根防水密着工法(A1-1)	4	100.0		20.00	
	外壁	20	フッ素樹脂塗装	4	100.0		20.00	
	小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00	
	小計							10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00	
	小計							10.00
合計							100.00	

この結果、消防学校の食堂棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>9</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	屋根保護防水密着工法(AI-1)	100.0	防水層からの漏水またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	フッ素樹脂塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	コンクリート打放し補修 ビニルクロス ケイカル板	100.0	劣化	特に問題なし
天井	NAD（ケイ酸カルシウム板） GB	100.0		
床	コンクリート（増打ち）金コテ押え 防塵塗装	100.0		
建具	アルミサッシ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

<sup>9</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年5年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年未満
消火設備	易操作型1号屋 内消火栓等	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（食堂棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(救助基本訓練施設)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（救助基本訓練施設）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	救助基本訓練施設				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	10	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	354.33			延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	528.00
構 造 ・ 階 数	S 造 地上 6 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
6F	24.00	メンテナンスデッキ			
5F	24.00	メンテナンスデッキ			
4F	24.00	メンテナンスデッキ			
3F	24.00	訓練デッキ			
2F	312.00	安全ネット収納スペース、訓練デッキ			
1F	120.00	倉庫、ピロティ			

福岡県消防学校の救助基本訓練施設は平成28年度に竣工しました。救助基本訓練施設は、はしご登はん、ロープブリッジ渡過など基礎的救助技術訓練を実施することを目的として整備されたものです。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	福岡県消防学校		建物名称	救助基本訓練施設					
所在地	嘉麻市牛隈1794番地		棟番・枝番	86	-	10	築年数	4年	
建築年度	平成28年	2016年度	建築面積	354.33 m <sup>2</sup>		現存率	100.0	想定 耐用年数	65年
構造・階数	S	6	延面積	528.00 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過 年数	②各部位の現存率		①×②		
構造	躯体	40	S	4	100.0		40.00		
	小計						40.00		
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	ガルバリウム鋼板	4	100.0		20.00		
	外壁	20	押出成形セメント板・コンクリート化粧 打放し(A種)・機水材塗装	4	100.0		20.00		
	小計						40.00		
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00		
	小計						10.00		
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00		
	小計						10.00		
合計						100.00			

この結果、消防学校の救助基本訓練施設の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>10</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	ガルバニウム鋼板	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	押出成型セメント板 コンクリート化粧打放し 撥水材塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	押出成型セメント板	100.0		
天井	亜鉛めっきデッキプレート	100.0	劣化	特に問題なし
床	コンクリート（増打ち）金コテ押え 防塵塗装	100.0		
建具	鋼製建具	100.0		
電灯・電話設備	電灯設備 電話設備	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

<sup>10</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
給排水・衛 生・給湯設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（救助基本訓練施設）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県消防学校  
(水難救助訓練施設)  
個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	72
施設所管課	消防防災指導課

令和3年2月

❀福岡県❀

福岡県消防学校（水難救助訓練施設）  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	（1）対象施設の概要	
	（2）対象施設の活用状況	
	（3）計画期間	
	（4）位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	（1）施設間の優先順位	
	（2）施設内での優先順位	
	（3）その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	（1）個別施設の状態	
	（2）施設の現存率	
	（3）目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	（1）改修・更新について	
	（2）対策の平準化について	
	（3）対策施設の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県消防学校		
所 管	総務部防災危機管理局消防防災指導課		
整 理 番 号	72	竣 工 年 度	平成 28 年度
所 在 地	福岡県嘉麻市牛隈 1794 番地		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	81,529.13	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,619.80
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	16,158.00
主 要 建 築 物	管理棟、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設 ※その他、付随施設として、家屋火災消火訓練施設（S造地上2階、建築面積93.9m <sup>2</sup> 、延床面積118.61m <sup>2</sup> ）があります。		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	水難救助訓練施設				
棟 番 ・ 枝 番	86	—	11	竣 工 年 度	平成 28 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	386.96		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	410.20	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上1階 地下1階 屋外プール：FRP製				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
1F	23.24	プールサイド、通路 (屋外プール：25m×13m)			
B1	386.96	潜水監視室、機械室、ボンベ置場、器材乾燥室、更衣・シャワー室			

福岡県消防学校の水難救助訓練施設は平成28年度に竣工しました。水難救助訓練施設は、水深1.5m、3m、5mと深度が異なる階段状のプールで潜水訓練などを実施する施設です。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内における改修は行う必要がありません。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、宿泊棟、体育館、教育棟、屋内訓練場、高層訓練棟、中層訓練棟、車庫兼訓練施設、食堂棟、救助基本訓練施設、水難救助訓練施設、家屋火災消火訓練施設があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表							
施設名称	福岡県消防学校			建物名称	水難救助訓練施設		
所在地	嘉麻市牛隈1794番地			棟番・枝番	86	-	11
建築年度	平成28年	2016年度	建築面積	386.96 m <sup>2</sup>		現存率	100.0
構造・階数	RC	1	延面積	410.20 m <sup>2</sup>		想定耐用年数	65年
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②
構造	躯体	40	RC	4	100.0		40.00
	小計						40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト露出防水工法(D-2)	4	100.0		20.00
	外壁	20	コンクリート化粧打放し(A種)・撥水材塗装	4	100.0		20.00
小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	100.0		10.00
	小計						10.00
合計							100.00

この結果、消防学校の水難救助訓練施設の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>11</sup>	Is 値が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト露出防水工法 (D-2)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート化粧打放し (A 種) 撥水材塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	コンクリート打放補修 磁器質タイル	100.0		
天井	コンクリート打放補修 NAD(ケイ酸カルシウム板)	100.0	劣化	特に問題なし
床	防塵塗装 ビニル床シート 磁器質タイル	100.0		
建具	アルミサッシ 鋼製建具	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 放送設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

<sup>11</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明設備 自動火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	防犯設備等	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築4年と新しく、建物の状態も良好であるため、消防学校（水難救助訓練施設）の目標耐用年数を原則どおり65年（残年数を61年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う必要はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。